

野幌商店街

(野幌商店街振興組合)

北海道江別市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

地場企業や NPO 法人と連携し、新たなコミュニティの場を構築。
「八丁目プラザのっぽ」を中心に人が集うまちへ。

基本データ

所在地	北海道江別市野幌町
人口	約 12 万人 (江別市)
電話/FAX	011-375-1724 / 011-375-1724
URL	http://nopporo-s.com/
会員数	26 名
店舗数	34 店舗(小売業 10 店、飲食業 13 店、サービス業 4 店、金融業 1 店、不動産業 4 店、医療サービス業 2 店)
商店街の類型	生活支援型
主な客層	主婦、高齢者 /60 歳代、50 歳代

商店街概要

野幌商店街は、札幌市に隣接する江別市の中央部に位置し、JR 野幌駅から道道「8 丁目通り」沿いの約 350m に形成されている。周辺には公民館、病院、金融機関があり、地域に根差した商店街として近隣住民の生活基盤を支えてきたが、近年は周辺への相次ぐ大型複合商業施設の出店により、商店街としての求心力は低下しつつあった。一方で、市内には札幌学院大学・北海道情報大学・酪農学園大学・北翔大学の 4 大学があり、学生の来訪は多い。また、江別市が「江別の顔づくり事業」として野幌駅周辺で鉄道高架、区画整理、道道拡幅工事を進めており、商店街再生の環境が整いつつあるタイミングでもある。

取組の背景

道路拡幅工事をきっかけに商店街のあり方を検討

平成 21 年頃、道路拡幅工事の決定に伴い商店街のコミュニティ施設や地産地消をテーマにした軽食スペース等が除却対象となった。商店街ではこれを機に今後のあり方について検討を始め、複数年にわたって調査・検討会議を実施。平成 27 年度にアンケート調査とヒアリング調査を行ったところ、①日中利用が可能なレストラン・カフェ、②多世代・多様な人々が交流するコミュニティスペース、③地場産品などを販売する場の 3 つのニーズが抽出された。

この結果を踏まえ、3 つのニーズを満たし、かつ、商店街が目指す、地域に根ざした「人と環境にやさしい、安全で安心なまち、ぶらぶら歩きが楽しい発見のあるまち」を実現するための事業の実施が始まった。

取組の内容

「八丁目プラザのっぽ」で新たな交流が誕生

ニーズを満たす地域交流の拠点として、3 つの施設が入る「八丁目プラザのっぽ」を平成 28 年 12 月に整備した。

①日中利用が可能なレストラン・カフェへのニーズに対しては、全国的にも知名度のある(株)町村農場と、同じく地元の人気フレンチレストラン「シェ・キノ」がコラボしたレストラン「カフェ&デリ マチ

ノキ」を誘致。(株)町村農場はレストラン分野には初進出だったため、出店準備に時間がかかったものの、施設のオープンと同時に開店を迎えることができ、これまでにない地域協働の形が実現した。



「八丁目プラザのっぽ」外観

次に、②多世代・多様な人々が交流するコミュニティスペースについてだが、商店街では、平成 12 年から地域交流活動の拠点として空き店舗を活用した誰でも利用できるコミュニティスペース「ほっとワールドのっぽ」を整備・運営してきた。サークル活動や各種講座、学生を中心としたスタッフによる小学生との世代間交流の場などとして地域住民に広く利用されていたが、市が進める道路拡幅工事により立ち退きとなったため、「八丁目プラザのっぽ」内にコミュニティスペースを再整備し、交流の場を復活させた。

また、商店街では、障がい者の就労を支援する地元の NPO 法人に対し、障がい者の活動の場や健常

者との交流の場の創出と、地元の安全な農産物、名産品の発掘・紹介の機会創出の場として、街区内の空き店舗を平成18年から「菓子工房 笑くぼ」として提供していた。同店も道路拡幅工事に伴い商店街の外に一旦移転したが、移転先の作業場が手狭になったことや、③地場産品などを販売する場へのニーズに応えるため、作業場を併設した、地元特産の小麦を使ったクッキーやパン、ケーキ等の製造・販売を行う施設を設けた。



コミュニティスペースでのサークル活動の様子



広がった「菓子工房 笑くぼ」の作業場

取組の成果

地域の中心として様々な人が集う場所に

「カフェ&デリ マチノキ」は想定どおり主婦層を

中心に賑わっており、さらなる集客を狙って接客技術の向上やメニューの改良に努めている。

コミュニティスペースは、従来の利用者に加え、健康体操講座等で定期的に利用されているが、前身施設の閉所から相当の期間が経過しているため、改めて存在の周知が必要と考え地域新聞などで広報を行っている。また、夜間利用を増やすため、学生向け料金の設定も検討している。

地元のNPO法人による地場産品販売の「菓子工房 笑くぼ」は、すでにここの商品のファンもいるほどで、さらに市内有名菓子店の売れ筋商品の販売を始めたところ、来店者数が倍増した。

以上の効果もあり、施設全体の来訪者数は月平均約2,000人を維持し、本施設を中心に半径400m圏内（気軽に歩いて買い物に行ける距離）の人口が約2,900人であることを考えると、すでに地域の中心として機能し出していると考えられる。

実施体制

施設整備にあたっては、国や市の補助を活用したほか、商店街が誘致した（株）町村農場に対して市から内装費及び家賃の一部について補助を受けている。

また、野幌駅周辺整備にかかる調整を目的に市が配置したコーディネーターが本事業でも事務・連絡調整などで大きく貢献した。

運営については、土地所有者に対して丁寧な説明を行うことで賃借料を下げてもらい、ランニングコストを抑えて自立的かつ継続的な運営に努めている。

従来から商店街が実施してきたまちづくりイベント事業（ハロウィン）や地域の夏祭り等とも連携し、当施設を活用して交流事業を行いながらさらなる地域協働を図っていく。

キーパーソンからのコメント



野幌商店街振興組合
理事長 梶野 雅裕

江別の顔づくり事業と商店街の有り方

野幌商店街は平成7年に江別の顔づくり事業が決まって以来、商店街の有り方を模索してきました。

特に、平成17年に整備計画で商店街の多くの建物が建て替わることがわかってからは、商店街の存続に向け、地権者や地域住民とそのあり方を検討しました。その結果、地域のコミュニティの中心機能を維持・拡大していきたいと考え、平成21年に野幌駅周辺地区活性化計画を策定しております。

新たなコミュニティの場として

平成27年に行った調査事業の結果は過去の調査結果と同じ傾向であったことから、本事業は野幌駅周辺地区活性化計画に基づき、地域ニーズを満たすべく商店街としてコミュニティ機能を拡充することとし、さらに地域資源の活用と商業機能を併せ持つ地場企業の協力を得て実現することができました。

これからは新たに地域食堂や学習支援などを実施し、コミュニティの中心として地域とともに発展していきたいと考えております。